

1699I

自昭和二十年三月一日
至昭和二十年八月末日

芙蓉部隊天號作戰史

3AF 7FB
7FB 一三
122fg 三AF
芙蓉部隊

目次

緒言

一 部隊ノ編制經過 (略)

二 部隊配備經過 (略)

三 芙蓉部隊戰鬪經過 (略)

四 芙蓉部隊作戰思想

五 戰訓

不精神力ト訓練

口整 備

八士 氣

六 終戰處理

藤 組

備言

大東亞戰爭末期ニ於テ一億特攻ノ思想皇軍ヲ風靡セル秋獨リ芙蓉部隊
 若年搭乗員多數ヲ收容シ乍ラ特攻隊ノ編制ヲ行フ事ナク其ノ旺盛ナル攻撃手
 精神ト卓越セル軍人精神ノ涵養ニ依リ不断ノ訓練研究ヲ強行シタル特殊部隊
 トシテ天號作戰ニ參加シ當初横須賀航空隊所見トシテ芙蓉隊ノ戰闘法ハ期
 待シ得スト迄言ハレ乍ラ天號作戰ヲ通シ終始沖繩夜間攻撃手ノ手ヲ緩メス他方敵
 機動部隊ニ對スル特殊攻撃法ニ依ル決戦兵力トシテ終戦時ト雖モ殆ント無傷ノ
 精兵七十機岩川基地ニ待機シ更ニ豫備兵力七十機ヲ静岡縣藤枝基地ニ有シ
 烈々タル闘志ノ儘聖断ヲ仰キ奉リ國情ヲ靜觀肅然トシテ復員セシ帝國海
 軍進攻夜間戰闘隊ノ戰史ハ特ニ其ノ作戰中ノ青年搭乗員ノ思想ヲ詳述シ敗
 戦皇軍ニ對スル批判ノ資料トセン

(終)

一部隊ノ編制經過 (略)

芙蓉部隊トハ天號作戰中期ニ於テ帝國海軍進攻夜間戰鬥機隊ニ命名サレタル特殊部隊名ニシテ編制經過又曲折多シ

不練成期間 (自昭和二十年二月一日至昭和二十年三月五日)

關東空部隊 指揮官 關東空司令

戰鬥九。飛行隊 (所屬三空) 昭和九年十月十五日比島ヨリ復歸

戰鬥八。二飛行隊 (所屬三空) 昭和二十年二月十日比島ヨリ復歸

戰鬥八。四飛行隊 (所屬北東空) 昭和二十年二月十日比島ヨリ復歸

整備 隊 一三空整備班及關東空整備班ヲ以テ編制

記事

(一) 昭和二十年三月五日附戰九。一飛行隊長美濃部少佐 一三空飛行長補セラレ關東空司令ノ命ヲ受ケ作戰並ニ練成ヲ補佐ス

(二) 昭和二十年三月十五日戰鬥八。四飛行隊ハ北東空ヨリ 一三空ニ編入サル

口作戦期間(自昭和二十年三月三十日 至昭和二十年八月十五日)		
(一)自昭和二十年三月三十一日 至昭和二十年四月十九日	T F B 3 A F	第十六攻撃隊 関東空部隊
関東空部隊 指揮官 鹿屋部隊 指揮官 美濃部少佐	指揮官 美濃部少佐 S九〇S八〇(S八二二部)(約四十機) 整備隊(三三空関東空整備班)	藤枝部隊 指揮官 S八一二飛行隊長 S八一二(S九〇S八〇四)練成員(三十機)
(二)自昭和二十年四月二十日 至昭和二十年八月十五日	T F B 3 A F	整備隊(三三空関東空整備班) 第十六攻撃隊 鹿屋(岩川)芙蓉部隊 藤枝芙蓉部隊

<p>芙蓉部隊 指 揮 官 一三三空司令(所在鹿取)</p>			<p>鹿屋(岩川)芙蓉部隊 指 揮 官 美濃部少佐</p>			<p>芙蓉部隊既練成員(約七十機)</p>			<p>藤枝 芙蓉部隊 指 揮 官 S八三飛行隊(後座高寺少佐)</p>			<p>芙蓉部隊要練成員(約七十機)</p>		
<p>記事</p> <p>作戦及練成ニ関シテハ鹿屋(岩川)芙蓉部隊指揮官直接藤枝芙蓉部隊指揮官ニ指示シ兵力移動ヲ實施シ得ル如クナリ居レリ</p> <p>(三)決號作戦時 編制兵力任務</p>														
T	F	B	部	隊	編	制	兵	力	任	務				
3	A	F												
1	3	1												
<p>藤枝芙蓉部隊</p>			<p>岩川芙蓉部隊</p>			<p>警正夜戦 四五 機 黎明 攻 撃</p>			<p>警正夜戦 四五 機 黎明 攻 撃</p>					
<p>訓練機 二〇 機</p>			<p>夜戦 一〇 機</p>			<p>警正夜戦 四五 機</p>			<p>警正夜戦 四五 機</p>					

被 害		事 記	三美谷部隊戦闘經過		不練成期間 (自昭和二十年二月一日至昭和三十年三月三十日)		二部隊配備經過 (略)	
			兵力戦 被 3 戦 之	兵力戦 被 2 戦 之	部	隊	部	隊
	戦	1			關東空部隊	藤	技	關東空部隊
					(一三一空)			只作戰期間 (自昭和二十年三月三十一日至昭和二十年八月十五日)
					鹿屋關東空(美谷)部隊			部
					藤技關東空(美谷)部隊			隊
					藤			技
					鹿屋(岩川)			配備基地
	戦	2	初 弾 使 用	28號 命 中 率 75%	藤			記
					技			事
								五月二十日 岩川基地ニ移動

録

大

月 天		日 候	作戦指導	使用機	任務	機要	成果
3 (半)	17	30) 晴	3 A F 兵力移動	慧夜戦 零夜戦	鹿屋移動 計5機		
3 (1)	18	31) 晴	兵力移動	慧夜戦 零夜戦 10	鹿屋移動 計35機		
4 (1)	19	1) 晴			整 研	備 究	
4 (1)	20	2) 晴			整 研	備 究	
4 (1)	21	3) 晴			整 研	備 究	
4 (1)	22	4) 晴	沖繩東方KdB =対警戒	慧夜戦 零夜戦	8 4	沖繩東方KdB 黎明敵攻撃	L 300 0330 発進
4 (1)	23	5) 晴				整備沖繩攻 撃研究会	
4 (1)	24	6) 晴	菊水/號作戦 時夜戦以テ 黎明湘地母 艦O.B及上陸 點銃爆撃	慧夜戦 零夜戦	8 6	□OB上陸 點銃爆撃 依敵陣梢 乱	{0245 発進 0300 発進 黎明攻撃 CX3 カット 直撃 TX / 炎上
4 (1)	25	7) 曇				整 備	
4 (1)	26	8) 小雨	KdB近接 兆アリ	慧夜戦	8	K d B 索敵攻撃	奄美大島東 方黎明索敵 天候不良 4機引返ス 敵ヲ見ス

油 引

6 1 4 1

1991

月日 (月齢) 天候	作戦指導	使用機	任務	行動概要	成果	被害	記事
4-9 (20) 雨	敵橋頭 保中區西 海岸設ケ						
4-10 (28) 雨	北中 領一部戦 闘機陸揚		第2號作戦 準備研究				
4-11 (29) 晴	4日未復 待子之 制圧要ス						
4-12 (30) 晴	第3號作 戦昼間特 隊血路啓 開要ス	撃夜戦 零夜戦	14 8	沖繩中 鋭撃爆撃 敵戦闘機 制圧	(0230 0300)発進	大火災上 3ヶ所	撃夜戦 3 零夜戦 3
4-13 (1) 半晴				整備			
4-14 (2) 晴	沖東方二 Kd.B捕提	撃夜戦	2	Kd.B特攻隊 伴動	1200発	喜介島 120-60ニテ 敵発見	撃夜戦 2
4-15	兵力藤技 移動	撃夜戦 零夜戦	12 4				兵力 撃夜戦 22 零夜戦 10
(3) 晴	前日二機 又Kd.B隊 氣運小洋 航法自信 之カ誘導試ム	撃夜戦	1	陸軍偵特 攻機誘導	1230整 機大島引 120-60 進出	敵発見 我突入ヲ報ス	撃夜戦 1 (同機特攻 3)
4-16 (4)	北中二機 戦闘機約 180集結 難排之 カ制圧ヲ特 攻攻撃突入 路啓開要ス 第3號作戦	撃夜戦 零夜戦	12 4	北中二機 徹底鋭爆撃 依ル 早朝制空	0300発進	大火災7ヶ所	零夜戦 1
晴	兵力一部藤技 復帰練成基 タラシム	撃夜戦 零夜戦	13 1				兵力 撃夜戦 28 零夜戦 8

録

置7

月(日) 天(候)	作戦指導	被機	任務	行動概要	成果	被害	記	事
4-17 (5) 晴	KdB 奄美大島東方 轟動ス KdB 沖繩攻撃 艦ヲ之ヲ抑止ス	替夜戦 12 零夜戦 3	KdB 索敵 攻撃	列島東南部 120 掃射 索敵攻撃 0300 発進	敵機見ス	遭 害		
4-18 (6) 曇			整備					
4-19 (7) 雨								
4-20 (8) 晴	天候不良 後 KdB 対艦 戒ヲ要ス	替夜戦 12 零夜戦 3	黎明 索敵 攻撃	0300 発進 喜島東南方 索敵攻撃 2300	敵機見ス			
4-21 (9) 晴	兵力 藤枝ヲ移動	替夜戦 12 零夜戦 6					兵力 替夜戦 40 零夜戦 14	
4-22 (10) 曇	KdB 依然トシテ 東南方ニ 之ヲ補足 攻撃ヲ要ス	替夜戦 8 零夜戦 4	KdB 索敵 攻撃	2300 0230 発進	敵機見ス		小型機ニテハ 若干短機 敵ヲ逸ス	
4-23 (11) 曇	沖繩基地攻撃 演習ヲ搭乗員 ニ實施ス							
4-24 (12) 半晴	天候不良 爲ニ對シテ 戒ヲ要ス				零夜戦 1機			
4-25 (13) 曇		替夜戦 4 零夜戦 4	KdB 索敵 攻撃	九州東南方 200 1圈内 0330 発進	敵空母見テ 突入ヲ報ス	零夜戦 1		
4-26 (14) 雨								
4-27 (15) 晴	菊水4號作戦 KdB 警戒ヲ要ス	替夜戦 6 零夜戦 6	KdB 索敵 攻撃	0300 発進 喜島東南方 2300	敵機見ス		沖繩攻撃 偵察飛行ヲ 兼テ	

6991

月日 月日	天候	作戦指導	使用機	任務	行動概要	成果	被害	記	事
4-28 (16)	晴	月明時終戦後 敵基地を制空部隊が補強 攻撃方法多種多様 夜間作戦に注意	撃破戦 20 零夜戦 8	夜襲も銃撃も 間及早期制圧	27日2000以 後遂に突進 黎明機進沖 繩基地銃爆 撃	44所炎上	零夜戦 1		
4-29 (17)	晴	前日同様	撃破戦 12 零夜戦 6	前日同様	前日同様	中田4所炎上 慶良間列島飛 行場艇1機 炎上 同幕舎1炎上	撃破戦 零夜戦 撃破戦 偵察員 村土戦死		
4-30 (18)	晴	前日同様	撃破戦 12 零夜戦 4	前日同様	前日同様	伊江島団炎上 一ヶ所	撃破戦 零夜戦 1		
5-1 (19)	雨								
5-2 (20)	雨	三浦半島 敵基地を 連襲し撃破							
5-3 (21)	晴	箱根作戦	撃破戦 6	沖總団攻撃	0030 突進				
5-4 (22)	晴	前日同様	撃破戦 8	同	上 0130 突進	北田炎上2ヶ所	撃破戦 2	敵破戦 跳込 山	
5-5 (23)	晴	練成基地 部隊機を 撃破	撃破戦 8 零夜戦 4	移動				兵力 撃破戦 零夜戦	26 6
5-5 (23)	晴	前日同様	撃破戦 6	同	上 0230 突進	不明			
5-6 (24)	晴	前日同様	撃破戦 6	同	上 0300 突進	不明			
5-7 (25)	晴	KdB村攻撃 式母	撃破戦 8	KdB敵攻撃	0345 突進 2250'	敵現ス			
5-8 (26)	雲								
5-9 (27)	晴	KdB対休 然撃つ 列島線敵小 艦艇出現之 偵察攻撃 アリ	撃破戦 8 零夜戦 2	KdB黎明索 攻 列島線敵艦 索敵攻撃	0345 突進 2250' 0415 突進 2200'	敵現ス			

月日 天候	作戦指導	使用機	任務	行動概要	成果	被害	記	事
5-10 (28) 晴	敵沖電基地 之制圧 部隊 夜戦	彗戦機 10 零戦機 2 零戦機 4	沖電基地 制圧 列島線敵機 掃蕩	0030 飛進 0200 飛進	炎上 2ヶ所 商船戦艦墜 1機			
5-12 (30) 晴	列東線及以 東搜索隊 飛機KdB行動 不明	彗戦機 10 零戦機 2	列島線及以 東搜索隊 攻撃	0300 飛進 彗戦機 250 零戦機 200	敵新島 130-20' 洋 潜水艦一隻 撃沈	彗戦機 1		
5-13 (1) 晴	敵機艦艇上 空=跳梁 KdB接近予 想	彗戦機 12	黎明索敵攻 撃	0400 飛進 佐多甲 1430-173 零戦機 150 圏内	0500 佐多甲 140-130 AXU 敵機 2機 撃見	彗戦機 1		
5-14 (2) 晴	前日同様	彗戦機 8 零戦機 2	同鹿屋 150° 90° 零戦機 150 圏内	0320-0420 飛進		彗戦機 2	夜戦 不良=行 夜戦=制 圧 ナル	
5-15 雨							兵 彗戦機 零戦機	22 6
5-16 晴	鹿屋基地 夜戦基地 指揮所 準備等不 満=迅速 主基地 シ岩川基地 移動準備 進	彗戦機 14 零戦機 6	岩川基地 移動	岩川基地設 営強化				
5-17 晴								
5-18 晴								
5-19 晴								
5-20 雨後晴	芙蓉隊本部 川=移動							
5-21 雨								
5-22 曇	岩川基地築城 強化及兵力移 動	彗戦機 8						
5-23 (1) 晴							全岩 川=集 結	1.0

1671

月日 月日 天候	作戦指導	使用機	任務	行動概要	成果	被害	記	事
5-24 (12) 晴	菊水七号作戦 南KdB及OB 行動各機 藤枝司令 兵力 移動	替夜戦 10 零夜戦 4	KdB黎明 南敵攻撃	列島線東方 L 250' 0200 発進	敵ヲ 見ス		兵力 替夜戦 零夜戦	34 16
5-25 (13) 曇		替夜戦 10 零夜戦 4 零夜戦 4	KdB黎明 南敵攻撃 黎明上空哨戒	列島線合山東西 200' 巾 250' 0330 発進 0445 発進	敵ヲ 見ス			
5-26 (14) 晴	新以茶乗員 対戦場三 機不調哨戒 任務実施ス	替夜戦 4 零夜戦 4	列島線左右 巾80' 2150' 哨戒	0430 発進	敵ヲ 見ス	替夜戦 1		
5-27 (15) 曇	菊水八号作戦	替夜戦 12 零夜戦 6	沖總団攻撃 列島線夜戦 掃蕩	0200 発進 0300 発進 掩美大島迄哨戒	炎上 三ヶ所			
5-28 (16) 晴		替夜戦 8 零夜戦 6	列島線南 敵攻撃	0230 発進 L 250'			地訓 線加味ス	
5-29 (17) 雨		替夜戦 8	同上	同上	上		燃焼機 庫不足ト ナル	
5-30 (18) 曇		替夜戦 4	同上	同上	上			
6-20 (20) 曇小雨	天候不良中 KdB動勢不明 専守哨戒	替夜戦 8 零夜戦 6	列島線合山 東方海面南 敵攻撃	0300~0350 発進 L 150'~200'	敵ヲ 見ス			
6-3 (22) 晴			整備				天候不良ト 使用力低下	使 為 実
6-23 (23) 曇								

海

機

日 時	天候	作戦指導	使用機	任務	行動概要	成果	記	事	被害
6-2 12:00	晴	菊水九号作戦		整備					
6-6 (26)	曇	Kd B 出現 北列島 警戒ヲ要ス	撃敵機 8 零戦機 5	Kd B 黎明 索敵攻撃	0300 発進 大部天候不良 引返ス	伊江島 140機見 撃			
6-7 (27)	晴			整備					
6-8 (28)	晴		撃敵機 5 零戦機 6	沖繩島攻撃 列島線索敵 攻撃	0230 発進 0300 発進	伊江島 炎上 一ヶ所	敵夜戦強化 ヲ認ム		
6-9 (29)	晴		撃敵機 10 零戦機 5	北田攻撃 索敵攻撃	0300 発進	不明	同類	上著	撃敵 3
6-10 (30)	晴	敵攻撃ニ対シ積極的 二夜間空中戦ヲ挑ミ之 カ北東ヲ封止セシム	撃敵機 4 零戦機 4	沖繩島攻撃 奄美大島 夜戦掃蕩	0230 発進 0300 発進	夜戦機 撃墜 1			撃敵 1
6-11 (31)	晴			整備					
6-12 (1)	雨								
6-13 (2)	雨								
6-14 (3)	雨								
6-15 (4)	雨								
6-16 (5)	雨								
6-17 (6)	曇								
6-18 (7)	雨								
6-19 (8)	曇								
6-20 (9)	晴								
6-21 (10)	晴	菊水-0号作戦	撃敵機 8 零戦機 2	沖繩島攻撃	0100 発進	炎上 一ヶ所			撃敵 1 撃敵 1

月日 天候	作戦指導	使用機	任務	行動概要	成果	被害	記事
6-23 (17) 半晴	燃料不足 用機極度 使用限少	替夜戦 6 零夜戦 6	沖繩田攻撃 東海索敵	0230 発進 0400 発進 150'	敵ヲ 見ス	替夜戦 2	
6-23 (18) 曇							
6-24 (19) 雨							
6-25 (20) 半晴	次期戦に備へ 全力集結シ 慣熟シメテ 備へヲサス 藤枝ヲ作戦 全力移動	替夜戦 8 零夜戦 5 替夜戦 18 零夜戦 10	沖繩田攻撃 進攻制圧	0130 発進 0230 発進			替夜戦 4 零夜戦 25
6-26 (21) 雨							
6-27 (22) 雨							
6-28 (23) 雨				天候不良為 真田上場習 等ニ技術思 想ヲ統一ス			
6-29 (24) 雨							
6-30 (25) 曇							
7-1 (26) 曇後晴							
7-2 (27) 曇後晴							
7-3 (28) 晴		替夜戦 6 替夜戦 2 零夜戦 5	伊江島田攻 撃奄美 大島上空制圧	0100 発進 0300 発進	炎上 2ヶ所		
7-4 (29) 晴							
7-5 (30) 半晴		替夜戦 4 零夜戦 4	列島線索敵 攻撃		敵ヲ 見ス		
7-6 (31) 曇後雨							

13

月 日 天候	作戦指導	使用機	任務	行動概要	成果	被害	記事
7-24 雨							
7-25 曇							
7-26 曇							
7-27 雨							
7-28 雨	天候不良決別作戦兵術教育						
7-29 雨							
7-13 曇							
7-12 雨							
7-11 曇							
7-18 (16) 曇	天候不良後、Kd B 警戒ヲ母ス	替夜戦 替夜戦 零夜戦	4 8 6	沖繩攻撃 列島線東方 艦一斉黎明 索敵	0300 発進 0330 発進 2,200'		
7-19 (7) 曇 霧		替夜戦 零夜戦	10 10	沖繩攻撃 艦隊上空 制圧	0230 発進 0300 発進	替夜戦 農務ト ハル 利師選 抜ヲ出 ス	
7-20 7-23 雨							
7-24 晴				整 備			
7-25 (13) 晴	Kd B=村: 警戒ヲ母ス 沖繩列島: 小型機 襲撃:	替夜戦 零夜戦 零夜戦	9 3 9	Kd B索敵攻 撃 Kd B索敵攻 撃	0130 発進 2,200' 1730 発進 2,150'		
7-26 晴 霧							
7-27 (15) 晴		替夜戦	16	沖繩列島攻撃	1000 発進 1020 発進	炎上 五ヶ所	

1675

月日 天候	作戦指導	使用機	任務	行動概要	成果	被害	記事
7-28 (16) 半晴		替夜戦 零夜戦 4 8	九州南方索敵 攻撃	0300 発進 L 190 1800 発進 L 120'			
7-29 (17) 晴		替夜戦 替夜戦 6 6	沖縄団攻撃 南東海面索敵	0000 発進 1800 発進 L 120'	炎上 三ヶ所		
7-29 (18) 半晴		零夜戦 6	対潜掃蕩	1800 発進 L 120'			
7-29 (19) 曇							
8-1 (20) 曇		替夜戦 零夜戦 12 4	沖縄団攻撃 対潜掃蕩	0100 発進 0400 発進			
8-2 (21) 雨							
8-3 (22) 風雨							
8-4 (23) 雨							
8-5 (24) 晴		替夜戦 零夜戦 8 4	南九州沿岸 100' 対潜掃蕩	1800 発進			
8-6 (25) 晴		替夜戦 零夜戦 6 6	東海KAB 索敵攻撃	(0300 発進 0400)			
8-7 (26) 晴		替夜戦 零夜戦 6 4	東海対潜掃蕩	1800 発進 L 100'			
8-7 (27) 晴							
8-9 (28) 晴曇		替夜戦 7	沖縄攻撃	0100 発進	伊江島大火災 中田上二ヶ所	替夜戦 2	霧濃 +191
8-10 (29) 晴							

海

機

月日 (月日) 天候	作戦指導	使用機	任務	行動概要	成果	被害	記事
8-11 (1) 晴		警夜戦 零夜戦	6 4	石名線 南東線敵	1745 発進 L 150'		
8-12 (2) 晴							
8-13 (3) 晴		警夜戦 零夜戦	8 6	黎明線敵 鮮	0400 発進 L 200'	敵が見え	
8-14 (4) 晴							
8-15 (5) 晴	第15号作戦 終戦宣言後 依り中絶攻撃 ヲ中止ス						
8-16 (6) 晴	自衛上九州南 部ニ特攻隊ヲ 派遣ス	警夜戦 零夜戦	12 8	九州沿岸 120' 敵 鮮	1700 発進 L 120'		
8-17 (7) 晴		警夜戦 零夜戦	12 8	同 上 同 上			
8-18 (8) 晴	SATP 制終戦 案相ヲ知リ一切 戦術行動ヲ 停止ス						
8-19 (9) 晴							
8-20 (10) 晴	全員ニ休暇命下ル						
8-21 (11) 晴	搭乗員防空隊員ヲ復員セシム						
8-22 (12) 晴	全員復員セシム本部ニ基地ニ残ニ終戦處理ヲ任ス						
8-25 (15) 晴							終

16

四美蓉部隊作戰思想

芙蓉部隊、如キ作戰思想ヲ以テ練成サレタル部隊、他ニテハ沖繩決戦ニ於テ初メテ出現シタルモノシテ夜間戦闘機ト雖モ對大型機局地邀撃ニ非スシテ專ラ進攻企圖ヲ有セルモノナリ

不制空權獲得法

局地制空權ニ非スシテ戰場帶ノ優位ヲ獲得セカ為メ不制空權獲得ニハ次ノ諸項アリ

(一) 甲戰(空中戰)ニ依リ人機諸共ニ擊墜空中清掃ヲナス

本目的ヲ達成スル為メハ制空隊兵力我ニ有利ナラサレハ決定的ナラサル恨アリ、戦闘機乗リノ獨リ天狗ノ劣勢兵力ヲ以テ優勢兵力ニ勝テ得ルト自慢シタ所、空中戰ニ個守シタ恨アリ

(二) 奇襲銃撃

漸滅作戰ニ手段トシテ本攻撃手法ハ極メテ有功ナルモ行動力劣弱ナル甲戰隊ヲ以テシテ晝間奇襲ヲ企圖シ反ツテ全滅ノ非運ヲ招キシ例數多アリ

(三) 爆撃隊地上機ヲ撃破シ大量機材消耗ヲ強ルハ米軍ノB-24 B-29戰法ノ最適例ニシテ日本空軍ノ命取リトモ

言フヘキモノナリ

只之カ為ニ六次項ヲ解決スル要アリ

(1) 激撃乙戦ノ優勢ナル要地爆撃ハ甲戦ノ支援ヲ必要トス

(2) 地上砲火熾烈ナル要地ハ被害大ナリ米軍基地ノ對空砲火密度ハ日本航空基地ノ其ニ比シ數百倍ノ熾烈サヲ有スル直接敵陣ニ飛込ミタル經驗者ニ非サレハ理解出来ス

日本作戰カ粗漏ナリシハ作戰幹部幕僚カ甲種大學ノ兵棋演習ノ頭ヲ絶体ト自負シ自ラハ實戰突入ノ經驗階級ノ者大多數ナリシハ又經驗アリシト雖モ支那事変及大東亞戰爭一段作戰ニ於ケル古キ體驗ニ依リ判断サレタル結果實戰搭乗員ノ敵防衛ノ砲火熾烈ヲ口ニスル者ヲ憶病呼ハハリタル如キハ徒ラニ帝國爆撃隊ノ衰滅ヲ早メサセタルノミナリ

(三) 丙

戰劣勢空軍ヲ以テ上リシ帝國航空部隊カ米軍ヲ斃ス唯一ノ手段ハ質ノ精強ト作戰ノ妙ヲ以テスル以外ニ方圖ナキ明カナルモ然シテ帝國古來戰法ノ妙ヲ奇襲特ニ夜襲戰ニアリシ思ヒラ夜間戰鬥ニ注ク者少カリシハ航空教育ノ歴史淺キト航空機ニ對シテ信頼性ナキ為トハ言ヒ乍ラ陸海軍主腦部ニ大罪惡ナリ

美容部隊は若年者トト言ヒ作ラ所謂本戦法同志的結合ヲ以テ集リ萬難ヲ排シテ練成教育ヲ完成セリ以テ次ノ戦闘目的ヲ有セリ

(1) 夜間特ニ黎明期銃爆撃ヲ依リ敵制空隊ヲ漸滅

(A) 基地航空部隊ニ對シテ

日出前二時間内至三時間前ヨリ銃爆撃隊ヲ以テ制圧セハ敵ノ當日晝間作戦使用機ノ飛行準備ハ不如意トナル必至ニシテ早朝期ニ於テ制空兵力所期實動機ヲ準備シ得ズ即チ搭乗員飛行機ハアレト實動機ハ敷滅セン

加フルニ實撃手効果モ三號彈或ハ銃撃威力ハ美容隊員自視戦果ノミニテモ相當アレト實際ハ自視戦果以上ニ中小破機ハ数倍スルモノナリ

カクテ早期機夜戦隊突入ニ次イテ晝間部隊ヲ突入セシムルハ極メテ有効ナル作戦主動性ヲ把握シ得

(B) KdBニ對シテ

絶對優勢力ノKdBニ對シテ特攻機スラ肉迫シ得ス況ニヤ劣勢力甲戰ヲ以テセハ却ツテ自

滅戦ヲ招来スルハ今次戦争ヲ以ツテモ明瞭ナリ

即チ天航空部隊ニシテ眞ニKd^B撃滅ノ勝算ナカリシト断言スルモ誤ナシ

芙蓉部隊ハ兵力一定数(四十機)ノ實動機保有ヲ六月以降準備シ得テ敵ニシテ近迫セバ敵制空隊ノ行動不如意ノ末明期殺到シ甲板待期ノ飛行機ヲ銃撃口ケト爆撃ニ依リ心中彈ヲ以テハ飛行機ナキ母艦群ト化スハ必至ナリ

其ノ後雷爆特攻隊ヲ以テハ制空戦闘機ノ妨害ナクシテ有効ナル撃滅戦ヲ實施シ得本戦法ノ為ニヨリ芙蓉隊ハ黎明銃爆特攻隊ヲ準備シ最後人機諸共ニ甲板上滑リ込ミ發進準備中ノ甲板上ノ飛行機ヲ掃キ落スノ戦闘方針ヲ有セリ

不幸芙蓉隊主命タル本戦闘ノ機會ハ終戦トナリ惠マレ得ズ決死作戰實施セサリシ為最後戦闘ヲ見スニ終リ我等數年ノ研究練成ハ暗ニ奪コレタリ

恨ラハマリアナ^L戦當時本思想ノ下ニ練成シタル初代戦闘三六飛行隊五十五機力時ニ空司令ノ友對ニ依リ激戦^L戦闘ヲ固守シタル為暗カラ暗ニ全滅シタ

ル事實ハあ號作戰敗戦ニ因テ事ヲ此機會ニ指摘ス

只奇戦ノ採用

正奇戦ノ併用ハ必勝ノ鐵則ナリ然ルモ戦末期ヨリ皇軍ノ作戰ニ策ナシ聲
ハ實施部隊ノ痛憤論談セル所ナリ「無理押一手」之カ作戰指導部ノ純忠必至ノ作
戦ノ誤判断シタル所ナリ我等之ヲ喝破スル所ハ次ノ如シ

(一)企圖ノ秘匿區

日本陸海軍ノ航空基地幾百ナルヲ知ラス其中ニ敵ニ攻撃ヲ加ヘ作ラ我カ基地ニ

一回モ攻撃ヲ受ケサリシ基地ハ他ニアリヤ若川ヲ他ニシテナシ

一機ノ航空機ヲト無咄ヒヨ致シ作ラ空爆被害ニ依リ地上攻撃破ヒシラレタ機數ハ

蓋シ萬ヲ越セン我次ノ對策ヲ實施シ逐ニ敵ニ攻撃スルノ策ナカラシム

(1)偽裝ノ徹底陰匿ニ非サハ價値ナシ

七十機ノ航空機ニ對シテ二月間ニ支拂ヒタル偽裝樹枝代二萬円ヲ以テ林間ニ引込ミ

更ニ新鮮ナル綠葉アル枝ヲ以テ完全陰匿ヲ強行セリ

(2) 飛行場要地ハ主用滑走路及使用誘導路以外ハ隣接所村ノ食糧増産ト兼テ無償貸與セリ

總海軍用地五百三十町歩

農耕地 約四〇〇町歩 全部農作物ヲ作り居ラリ

使用滑走路 三五町歩 航空基地トシテ直接使用セシハ僅クニ

使用誘導路 一五町歩 全海軍用地ノ十分ノ一ニテ足レリ之類ヨリ

森林 約五〇町歩 基地トシテ使用中ナル事ヲ觀破ス致ラザルニ

道路其他 約二〇町歩 果大原田ナリ

然シテ機銃陣地等ハ計畫ヲ全部変更シ水平射撃ヲ禁シ仰角一〇度以上待受射

撃法ニ依リ考慮セル銃座ハ地平面トニ掘置シ上部ハ樹枝ヲ以テ偽裝セシム

(3) 使用滑走路ハ生ナルモ使用敏キ為白ク露出セリ之ニ對シテ發着地帯ヲ巾八〇米

長サ一四〇〇米ニ限定シ日中ハ常ニ作業員十名ヲ以テ滑走路偽裝隊ヲ備制シ草ヲ

刈ツテ散布セテ空中ヨリ使用企圖ヲ觀破セシメス

更ニ移動家屋ヲ四棟常設シ晝間滑走路ニ定置ス

加フル牛一〇頭ヲ放牧シ牧場ノ如ク見セ掛ケ移動植樹ヲ行ヘリ

(4)夜間發着管制ノ教育徹底化

(A)夜間設備ハ一切方向性トシ點滅ハ指揮所ニ於テ幹部實施シ飛行作業中ト雖モ敵機未龍ニ際シテハ自在ニ管制セリ

(B)味方識別信號及味方識別飛行高度侵入方向ヲ定メ敵味方識別ヲ夜間ト雖モ誤謬ヲカラシム

(C)夜設備ハ搭乗員豫備中尉指揮官トナリ戦闘配置トシ定メ訓練シ飛行機事故風向変化等ニ即應灯火漏洩ヲ絶對ニシク迅速ニ實施シ得ル如クス

記事

他人曰ク岩川ハ夜戰隊ノミニテ使用シ周圍ニ山林惠マレ居ル故ニ好都合ナリシト

斷ニテ否エ夫ト執意ト擧隊一致ノ聲和信賴アル所其ノ土地土地ニ即應シ偽裝法必スアリ我等己ニ藤枝航空基地ニテモ實施シ終戰迄地上被害ナリシハ同一回航空實驗部ノ飛行機無偽裝ノ為

23

添へテ喰ソクミニテ地上被害甚熾ニテ終始セシ事實ヲモ併記ス

他隊大佐中佐ノ幹部ヲ有シテ果シテ此秘機對シテモ不眠不休ノ熱意ト責任感アリシヤ
如何ナル妙戦法モ机上ニテ成立セズ昭和二十年二月己ニ此ノ事實ヲ第三航空艦隊ノ研究
會席上ニ於テ述ヘタルニ拘ラズ悠然ト煙草ヲ喰ヘ居リシ司令飛行長殆ト全頁ニシテ我ハ航空ノ
權威者ナリト自負セシ不忠者ハカリナリ

戦法ハ頭腦ハカリニ非ズ楠公ノ戦略戰術ト雖モ不斷ノ教育訓練ト夕指揮官ノ純忠誠ナリ

(二) 新兵器ノ採用

(1) ロケット爆弾、三号弾、三十一號弾、反跳爆弾

特殊爆弾ハ保守的海軍軍人ニ用兵者間ノ熱意不足ノ爲
 逐ニ見ルベキモノナクテ終戦トナレリ。命中率絶大ノロケット弾
 ニ対シ芙蓉隊ガ小型舟艇攻撃手及ビ甲板上飛行機撃破
 ノ対空母攻撃兵器トシテ絶対必要ナルヲ強調セシ、昭和十九年
 十二月ナレドモ當時ロケット弾使用ノ戦機隊(対大型機攻撃)
 ニ於テ果シテ何人が急速出現ヲ要望セシヤ。航空本部ニ於テ我等
 其ノ必要ヲ強調セシ関係部員ハ徒ニ生産間ニ合ハズト稱シ熱
 意ナシ或ハ實驗兵器ナリト稱シ實施部隊ニ裝備スル事ヲ遅延
 セシメタリ。我等之等困難ニ対シテ航空廠等ヲ説キ歩キ
 ヤット整備セリ。

他ノ特殊弾ハ所謂當時「ストック」ノ餘リニテ他部隊ノ要求

ナキト艦隊兵器參謀ノ執意ニ依リ戰備ニ不足ナク基地及
撃ヲ対スル特殊攻撃法ノ採用ヲ見タリ

(2) 斜銃

本兵器ハ芙蓉部隊兵力僅少ノ爲對大型機空戰ノ任務迄
相當出來ズ充分活用ヲ見ザリシモ對夜戰空戰ニハ不可缺ノ

新兵器ナリ

(三) 行動力強化

奇襲戰ハ天象地象ヲ極度ニ利用出來ザレバ成立セズ之が爲ニハ
航空機ニ最大障礙タル行動力ノ貧弱ヲ補ハザレバ目的ヲ達シ得ズ

(1) 夜間行動力ノ増大

後述練成教育ノ項ニ於テ詳述ス

(2) 整備ノ強化

後述練成教育ノ項ニ於テ詳述

36

右二項ヲ完成シ實動率零戰九〇% 彗星一ニ型ハ〇%以上ヲ保
 有シ若年搭乗員ガ夜間單獨沖繩攻撃ヲ可能ノ域ニ達シテ
 始メテ攻撃特機ノ自由選擇ガ可能トナリタリ
 (四) 敵ヲ知ルニ真劍ニシテ之ガ対策ハ擧隊研究解結セリ

(一) 対空砲火ニ対シテ

重要戰機ニ必ズ分隊長以上出撃手シ敵対空砲火ノ配列密
 度ヲ檢査シ攻撃手法ハ

A. 菊水一ニ三號作戰ハ超低空必中攻撃手ヲ採用セリ

B. 菊水四號作戰ニ敵ノ待受射撃圏ニ〇〇米以下ナルヲ

破シ波狀攻撃手ニ依リ部隊身隊ヲ超低空ニテ突入セシム

主力ハ四千米以上ヨリ夜間急降下爆撃手法投下高度

三千米ヲ採用セリ

(二) 敵夜間戰鬥機ニ対シテ

A. 夜戦指揮系統攻撃

夜間戦半機ハ其ノ指揮系統ヲ破碎セシ威力激減ス之ガ爲ニ
列島線ヲ含ハ索敵攻撃ヲ屢々實施セリ。

B. 夜戦配備ヲ掩美大島・徳之島・沖繩北端ト觀破シ

連撃航路ヲ各機燃料ノ許ス範圍ニテ自由ニ選擇セシム
本件ハ彗星一二型ノ如ク爆裝夜間攻撃ハ已ニ沖繩往復
スラ無理ナ航續距離シカキ爲充分活用シ得ズ

連撃高度ニ関シテモ三千内至四千、最モ燃費少キモ之
ヲ上下スル其シク燃費大トナリ敵夜戦ノ下ヲ著ル事
不可能ナリキ。

之ガ芙蓉部隊未返機ヲ多数出シテ最大原因
ナルモ戦局之ヲ觀過出來ズ無理ヲ承知ノ攻撃ヲ續行
テアツタ。

(3) 敵基地ヲ詳知ス

初陣ノ搭乗員ニ対シテ夜間敵陣突入ハ至難ナリ之ガ爲ニ
地上ニ沖繩立體模型ヲ作り毎日地上演習ヲ實施シ誰デモ

夜間沖繩視認状況ヲ暗記スル迄ニ教育セリ。

カクテ奇戦ハ熱意アル指導部ト隊員ノ精神的結合ニ依リ初
メテ完成シ得ルモノニシテ一朝夕ノ思付キニテハ断ジテ企圖不
可能ナリ。

ハ、確實ナキ戦ハ實施セズ

戦ハ名譽言ヤ面子ヲ以テ指導スベキニ非ズ然ルニ今次大戦ノ敗
因ハ戦争指導部ニ必勝ノ確實ナクシテマリアナ戦以後ヲ強行
セル恨アリ

然ラスト言フ人アラバ指導部ハ無能ナリ

ソロモン戦不利ト見タル時何故ニ比島ヲ放棄シテ防備ヲ本土ニ集

海

29

中セサルヤ

沖繩戦ニ於テ屢々直衛機員弱ナル時ニ直衛機比自無ノ特
攻隊ヲ注ギ込ミ居タリ

芙蓉隊ハ戦半経過ヲ見テモ明ラカナル如ク夜間攻撃ヲ必ス

月明下ニ集中シ暗夜ニハ精強ヲ以テゲリラ的ニ攻撃ヲ加ヘタリ

対KOB攻撃モ徒ニ大遠距離ニ出ス事ナク捕捉費ノ確算アル

百五〇理圈内ニ引寄せテ全力必中攻撃ヲ待機シ居タリ

或ハ生地ノ経験ナクテ直接實戦ニ使用シテモ戦力ハ貧弱ナル爲

必ズ現地ニ於テ近距離索敵攻撃ニ〇〇理程度ヲ二三回實施

セシメタル後沖繩ニ出撃セシメタル結果全員確算ヲ以ツテ出撃

五. 戦訓

不精神カト訓練

敗戦ノ一因トシテ皇軍軍人精神教育ニ根本誤謬アリ

即チ軍人勅諭ノ「死ハ瀕モヨリモ輕ク義ハ凶ヨリモ重シ」上官ノ命ハ直ニ朕ガ命ト心得ヨレ此ノ勅諭行義ヲ誤リ部下ニ対スル指揮ニ之ヲ振リ翳シ上ニ立ツ者ガ果シテ統帥ノ大權ヲ拜承スル丈ノ識量ヲ涵養セシヤ

特攻ヲ口ニシテ乍ラ果シテ司令部及ビ各隊幹部自ラノ戦爭感ハ如何ニアレ程ノ若人ヲ殺シ乍ラ終戦トナリ終戦處理モ考ヘズニ家庭ニ逃ゲ歸リシ事實ハ果シテ第五航空艦隊幹部ノミガ軍人精神不充分ノ者デアツト誰カ断言出来ル寧ろ精銳ガ天号部隊ニ集ツテ居タト言ヘヨウ

芙蓉部隊ガ特攻ニ反対セン根本理由ハ

一ツニ若イ搭乗員々々特攻ノ編制ヲナシ司令飛行長隊長ヲ編制ヨリ除キタル莫ニアリ

ニツニ特攻隊ハ精神ノ極致ナレ共戦技訓練ニ関心少キ爲
 終局ノ勝利者ニ非ズ
 軍人ナレバ腕ヲ磨キ精神ヲ極養スルハ死ニ到ル迄ノ修養ナリ
 之戦力培養上不可缺ナリ
 三ツニ特攻ハ戦機ニ乘ジ臨機必死隊ヲ出スベキモノニシテ常用
 スル戦斗ノ邪道ナリ
 芙蓉隊ハ対機動部隊先制制圧隊ニ対シテ決号作戦時
 必死者ノ編制ハナシアリタリ
 人日ク菲島戦ノ跡ヲ見タル時今ヤ日本ニ資材不足燃料不足
 搭乗員若年ニシテ従来ノ攻撃ニテハ勝算ナレ特攻攻撃コソ
 唯一ノ必勝ノ鍵ナリト
 我等ハ其ノ精神ハ採ルベキハ勿論ナレ共上下擧隊死ヲ
 堵ミテ研究訓練スル所何事カ成ラザラズ

特攻攻撃ニテ片付ケルハ上層部責任逃罪ナリ

此所ニ昭和十九年十二月戦斗九〇一飛行隊ヨリ先ズ訓練ニ対スル

死闘が試ミラレタリ

夜戦隊練成法

(一)夜戦隊練成上ノ難莫及ビ執リタル対策

(二)搭乗員が未熟ナリ

中練教員、水上機搭乗員及練習航空隊卒業直後ノ十三期

七十三期学生ヲ主カトシテ平均飛行時數百五十時間内至二百五十

時間

(2)使用機材転換ノ爲ニ彗星一二型経験比皆無ノ者バカリカフルニ當時

殺人機ト稱サレタルI.P.アッタ發動機ニ対シテ夜間使用ヲ企圖

セリ月光製造中止ハ夜戦隊ノ致命傷トモ言フベク發動率

一〇%以下ノアッタ發動機タル彗星一二型ヲ採用セシハ當時

33

二一〇空ノ如キ保有機ニ〇機ニ対シテ實動機ニ三機ノ
實狀ヲ見テ何人カ暗澹トセン

(3) 指導者幹部ナレ

夜戦隊ニハ歴史少ク輕視サレタル爲ニ隊カナク戦斗九〇一飛行隊
カ比島ヨリ練成ニ歸リタル時所属七五二空トアルモ司令飛行長
ハ夜戦ニ無験者ニシテ飛行場及機材集收スラ隊長自ラノ手
ニテセザルヲ得ズ

更ニ二〇三空一三一空ト所属ヲ変更セシメラレド司令
ニシテ直接隊員訓練ニ関心ヲ有セシ者一人モ無ク實戰
ニ於テスラ^僅ニ関東空司令ガ十五日間第一線ニ於テ指揮
ヲ執リタルノミ一三一空司令ノ如クハ指揮官ハ名ノミニテ
遂ニ戦場ニ於テ指揮ヲ執ス隊員ニシテ司令ノ名前
顔ヲ知ラサル者大部分ナリ

34

(4) 練成対策

新機材ニ対スル教育ハ整備員、搭乗員、共ニ直接會社
 技手ヲ招キ隊長以下全員、熟知スル迄徹底的教育シ地上
 訓練ハ二月ノ寒夜午前零時起床ニテ夜間整備及地上
 訓練ヲ強行セリ

一隊員ニ到ル迄、教習ヲ集メ研究會ヲ開キ等級ノ如何
 ヲ問ハズ新着想ヲ採用シ決定セバ何人ト雖モ實施ス

(二) 練成上ノ着想

(1) 母隊ノ作成教育

練成飛行隊ハ短期教育ニ於テ母隊ナキハ最大ノ支障ナリ
 此所ニ藤枝基地ヲ夜戦隊母隊ト假想シ司令以下幹部
 及ビ全乙航空隊員ニ対シテ夜戦隊ノ理解アル隊風ヲ作レリ

(2) 夜間飛行訓練上

A 計器飛行ハ長時間ノ練習ナクシテハ自信付クズ故ニ夜間ト
雖モ有視界操縦ヲ建前トシ勲ノ養成上テ次ノ対策ヲナス

a. 日課ヲ夜間訓練日課トシ

食事就寝時間ヲ變更シ平素ト雖モ坐學整備ヲ

夜間行ヒ眼ヲ慣ラサス 夜間作業ハ体力消耗甚シ

故ニ獻立ヲ變更シ最大「カロリー」ヲ含ム食事ヲ〇六〇トス

即チ〇〇〇〇起床〇一〇〇朝食〇六〇〇晝食一〇〇〇夕

食一六〇〇夜食トス

且數機ノ訓練ニモ全員参加シ暗夜ニ見學セシム

B. 航法ハ上層風觀測値ヲ利用シ未熟偵察員及零夜戰

搭乗員ノ航法員擔ヲ地上ニテ實施シ機上ニテハ輕クセリ

即チ必ズ飛行直前測風ヲナシ飛行ハ建前トシテハ三〇〇〇

米以上ノ恒風帶ノ飛行ヲ實施セシム

海

36

本法ハ沖繩作戰中常用シ圖板ノ整理ハ出發前ニテシ機上ニテハ
見張對敵判斷ニ全カヲ注ガシメ機位ヲ失シテ未取還トナリシハ零夜戦只
一機ノミナリ

(3) 坐學ノ重視

搭乗員ヲシテ練習航空隊以上ニ坐學ノ多クイ所ト嘆セシメタル
程坐學ヲ重視シ思想ノ統一研究心ノ涵養ニ努メタル結果燃料不
足ノ折ニテモ一人ニ時間平均ニテ夜間行動(〇〇哩以上)ニ全員自信
ヲ得タリ

(4) 夜設ハ極力灯火ヲ多ク使用セリ

對敵顧慮ノ爲徒ラニ灯火ヲ減少スル傾向ニ對シ芙蓉隊ハ滑走路ニハ
二〇個ノ灯火ト晁々タル指導灯ヲ設備シ左フルニ定着帶ハ時ニ照明セリ
之ガ爲若年搭乗員ト雖モ降着ニ對スル不安ヲ軽減セシハ夜間飛行
急速練成ノ因ナリ只シ灯火ハ方向性トナシ對敵顧慮ハ充分行ヘリ

海

7
3/25

只 整 備

零戦九〇% 彗星八〇%以上ノ實動率保持ノ蔭ニ整備隊長以下
純心ニ愛機ノ精神旺盛シ搭乗員教育ニ劣ラズ下級幹部ニ到ル迄

愛機飛バサルハ整備員ノ取トナシ

二月末ノ藤枝基地ニテ午後十一時指揮官が見廻ッ時次整備員ノ會話
ニテモ知ルベシ

「モウ寝ナイト隊長ニ叱ラレルゾ、ソウシテ明日ハ又零時起シテ横ニナル暇ガナイ

」見付カルトイカンカラ貴様見張シテ居レモウ少シテ完備スルンダ

芙蓉隊ハ夜間訓練ハ健康カラノ「モットウ」ノ下ニ整備ハ當時ニ〇〇

迄ニ片付カナイ者ハ明日實施スル如ク嚴命シアリタリ然シ其ノ整備

意欲ハ寒風吹キ荒フ如月未徹夜シテ修理セントスル純心ナ整備員ハ

豈一人ニ人テハナカッタ幹部ハ之ガ爲トシ程合掌ニ感激セシカハ数

知レス

38

又着任早々、豫備少尉が二波電池ノ奥、檢ヲセズシテ出撃機完備ヲ届ケタノニ對シテ絶食ノ嚴命ノトニ全機七十機ノ二波電池整備ヲ實施セシメ三日間一食モ執ラズニ整備セシ若尉少尉ノ能心度ハ隊風ヲ感知セシ所大ナルモアル証據ナリ

ハ士 氣

大東亞戰爭ヲ通ジ皇軍士氣ハ顯著充實化ヲナシアリ即チ

一段作戦中 (自昭和十六年十一月至昭和十七年六月)

全皇軍撃手減ノ氣魄ニ燃エ神州不敗ノ信念ヲ深クシ戦勢ヲ卷込

マレ懦夫モ勇者トナッタ

二段作戦 (自昭和十七年六月ミッドウェイ海戦至昭和十八年十一月ブーゲンビル沖航空戦)

落セド沈メド物量ト科学ノ絶對攻撃手ニ出會シ名アル戦士ノ次々ト

斃レ行クヲ見テ武人ノ名ヲ惜ム者ハ進ンデ討死シ然ラザル者ハ徒

ラナル神州不滅ノ觀念的護符ニ頼リ自ラ戦局打開ノ氣魄ヲ失ヘリ

39

三段作戦

(自昭和十九年一月トラック島被攻撃)
至昭和二十年二月比

島被攻撃

48

米空軍ノ壓倒的優勢ノ下ニ自衛ノ思想旺盛シ作戰司令部
又常ニ堅固ナ防空壕ノ中ヨリ机上作戰ヲ強行シ之ガ爲ニ實施
部隊ト意志疎通ヲ害シ若年者ハ徒ラニ恐々トシ老練者ハ要領
ヨク立廻ル如クナリ遂ニ特攻ニ非ザレバ必中ハ期待シ得ズトナレリ
沖繩作戦

全員特攻ハ指導部ノ掛聲ニシテ特攻隊員ハ大和民族ハ遅カレ
早カレ全員玉碎ヲ待ツバカリ死ヌナラ「思ヒニ特攻デト考フ
日本ノ軍人ニシテ死ネトイワレテ否ト言フ術ハ生レル時カラ知ラス
サレド特攻隊ト命名サレタル者ノ生ヘノ執着ハ日ニ日ニ強カト
ナリ一及面ドウニモナラヌ運命ニテカタン的トナリ居タリ
右ノ傾向ハ大勢ノ動キナリ人生シテ誰カ死ヲ欲セン然ルニ日本
軍人ハ死ヲ厭フヲ最大ノ罪トサレテ教育サレ信念付ケラレテ居タ

ソレ故ニ修養不徹底カ日淺キ者ハ之ヲ口ニスルスラ恐レ内心煩悶
 シ居タル者大多數ナリ此所ニ日本軍人教育ニ誤謬ガアツタ
 終戦後ノ皇軍ノ惨タル姿ガ如實ニ物語ル日本大衆ノ聲ガ
 物語ツテ居ル

此所ニ無理ガアツタ戦ツテモ戦ツテモ生存ハ武人ノ恥辱デアル所
 ニ人トシテ生レタ者ノ根本的矛盾ガアツタソレハ敗ケ戦ヲ考ヘサル
 日本人ノ理念ノトニ樹立サレタ武人道デアツタ

芙蓉隊ハ士氣振作ノ根本ヲ右ニ想到シ成算ナキ無理ヲ突撃
 ハ實施セス

即チ戦ハ如何ニシテ多クノ敵ヲ撃テ滅スルカ为目的ニシテ生死ハ間
 フ所ニ非ズ此ノ一身ヲ犠牲ニスル事ニ依ツテ他ヲ救フ事ガ出来
 戦局ヲ打開スル好機ト見レテ死ニテ死ネル

死シテモ無駄ナ場合ニ面子モ名モ云スルナ次ノ攻撃ニ倍ノ

働キラナセ、カクシテ飛行機故障等ヲ引返ス者ハ皆シテ慰メ迎
エタリ

更ニ戦局日ニ月ニ不利ニシテ勝算アリヤト心配セン搭乗員ハ明日
ノ攻撃ヲ我ラコソト申出ズル者續出シタリ

ソノ場合「死ス時ハ未ダ未ダ敵神州ヲ汚ス時コソ我等ヲ撃ツ
テ死ヌバカリ急ツテ軍人ノ使命ハ此ノ戦ニ勝ツニアル事ヲ忘レルナ
ト教ヘタリ

同一基地ニ在リテ特攻隊員タル西條空搭乗員が日々酒ヲ
飲ミ寝テ居ル時芙蓉隊ハ夜モ晝モ坐学ニ地上演習ニ没
頭シ居タ明ルク笑フ聲ハ特攻隊員ニ少カツタ

士気地ニ墜テタル時が終戦ノ時ナリ

二〇年七月デアツタ基地ニ大阪ヨリ慰問團訪レ演藝會ヲ
施行シタル際搭乗員ノ觀劇ノ表情ヲ注意シタルニ笑ツテ

居ル聲が空虚デアツタ

指揮官ハ之ヲ見テ暗然トセリ日本ノ餘命幾莫モナシ

眞ニ國ヲ思ヒ必勝ノ神機ヲ待ツ搭乗員間ニモ此ノ頃ヨリ漸ク

日本ニ対スル絶望ノ實相ヲ觀破スルニ到ツタ下士官兵ニ到ル迄

明ルイ表情カ消エルヤウデハ己ニ全員中老ノ末碎楠家湊川

ノ一戰ヲ言ハズ語ラズ覺悟シタ時デアアル

口先ノ玉碎テハナイ腹ノ底カラ覺悟シタ全隊員ノ最モ雄辨ナル

表現デアアル

富高ニ後退セヨノ司令部ノ命令モ今ハ笑止ナリ基地ニ爆彈

ヲ以テスル空雷地雷ノ敷設計畫カ完成シタ一兵ト雖モ後退

戦法ハ執ラズ薩南ノ住民ト共ニ敵上陸セバ此ノ基地ニ此ノ愛

機ノ整備シタ所ニ最後ノフスツチト共ニ敵ト差違エシ

飛行機隊ハ此ノ時コソ眞ニ勝敗ヲ決スル心中攻撃ヲ以テシ

43

放ツタ彈ニシテ命中セザレバ全機突入KdB
先制攻撃手ニ静カニ死期ヲ待ツタノデアル

六、終戦處理

八月十五日 霹靂ノ詔勅ハ勅突ノ中ニ日本ノ實態ヲ拜承セリ
八月十六、十七日、全隊員大和民族救済ノ最後ノ手段ヲ失ヘル者ノ
セメテモノ餞ケニ敵本土ニ不法上陸セシカ之ト差違エント隊員總意
ノ決議ハ定マリ

八月十八日 聖慮末ダ皇土ト民族ノ不滅ヲ信ジ給ヘルヲ承リ
翻然トシテ戰鬥行為ノ断念ヲナス

八月二十一日

司令部ヨリ全員ノ休暇ヲ命ゼラレ幹部ノミ終戦處理ノ責ニ
任ジ他ハ父母ノ膝下ニ復員セシム
カクテ人生最高ノ哲理ヲ体験セシ隊員ハ他隊ニ見ル如キ

周章狼狽なる者モナク又不正軍需品ヲ持販リ者モナク戦
 ヒ果シタ者ノ真ノ叫ビトシテ無駄ナ今後ノ陰謀ハ真平ナリ
 アレ程擧テ隊一致シテ努力シ天下ノ精銳機彗星一二型零
 戦ヲ石川 藤枝一五〇機ヲ以ツテシテモ大勢ハ如何トモシ得
 サリレ者ガ今ハ何ヲカ求メン只々平和的手段ニ依リ皇土皇民
 ノ將來ヲ祈ルニシ
 我等ハ今更ニ國ヲ指導シ何スレゾ人命ヲ害スルガ如キ闘争
 ヲ再ビ企圖セシヤ
 人命ハ尊シ人生ハ無六射ヲ求ム
 聯合軍ニシテ皇土皇民ノ存續隆盛ヲ容ルナレバ我等死シ又
 何ヲカ求メン民族永遠ノ發達ハ大乗的人生欲求ナリ
 誰カ言ヒレ國敗レテ山河アリトハ皇土ニ芙蓉ハ尚端麗ニ聳
 ス純朴ナル農民尚山田ヲ耕ヤス軍需ヲ企圖ハ夢ト化スモ

原
 45
 118

上ニ天皇ヲ載キ萬民生ニ安ニズルナラバ鬪争ノ後ニ歸リテ平和
 トノミ言フ勿レ皇國無穴躬ハ一切ノ劍ヲ捨テ淨化サレタル世界
 ノ共存共栄ノ實体ノ中ニこそ我等ハ求ルノミ
 何國ト雖モ武ノミニ勝テル國ハ武ニ敗ルハ古今歴史ノ哲理
 ナリ



46

444